

内視鏡的粘膜下層剥離術に用いる完全縫縮クリップ

消化管内科、肝胆膵内科 村石純一

利用分野

巣胃・大腸・食道・十二指腸・咽頭の早期がん(病変が浅く、粘膜内にとどまる)が治療に適應される内視鏡的粘膜下層剥離術において用いられる止血用クリップの改良型である。本クリップにより、特別な手技を必要とせずに、完全な縫縮に近づけることが可能となる。

シーズ

視認性が高い、極細径の糸により 直径3ミリ程度のループが付設された止血用クリップである。ループ径を小さくすることで、潰瘍辺縁同士を密に縫合することが可能となり完全縫縮が期待できる。また、縫合部位の視野を妨げない。術者は、ストレスなく、正確に縫縮することが可能となる。



ニーズ

内視鏡的粘膜下層剥離術は、早期悪性腫瘍に対して病変を一括切除する治療法であり、胃・十二指腸、食堂、大腸で保険収載されており、広く普及した標準的治療法である。一方、術後の出血や遅発性穿孔などの偶発症を完全に克服するまでには至っておらず、完全縫縮術が求められている。

連携分野

本発明の止血用クリップの製造及び販売。



知財保護

特願2022-028268



内視鏡による止血には、クリップ、熱凝固、薬剤がある



本学マスコットキャラクター
ラマディー



産業医科大学

産業医科大学 産学連携・知的財産本部

〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL: 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail: chizai@mbx.pub.uoeh-u.ac.jp